

# 収穫祭（2014年10月11日）



2014年最強の台風と言われた「台風19号」が接近する中、収穫祭は、まるで夏の日差しを感じさせるような好天のもとで行なわれました。



縄文時代の文化を感じさせるような、古式に則った収穫祭や今回新たに登場した竪穴式住居に、日本の文化の奥深さを感じました。

今後は富士吉田市の学芸員の方と相談をしながら、水かけ麦の栽培にも取り組んでいきたいと計画しています。

ご多忙にもかかわらず参加下さった各国大使も稲の収穫体験をととても喜ばれ、そのお姿に全国より集まった参加者より大きな拍手がまきおこりました。



←シリア・アラブ共和国、ワリフ・ハラビ閣下。

「オラが富士の大和撫子 INE」のみなさんが農作業に大勢参加してくれました。→

各国大使をはじめ、参加者のみなさんは青空の下、稲刈り体験と昼食を終えられ、史跡めぐりへと移動されました。



←ブルキナファソ、ベンジャミン・ナナ筆頭公司

Knob氏による石笛の音開きと世界最古の管楽器の一つと言われているオーストラリアの楽器ディジュリドゥの演奏に続き、神楽会「不二」の古代舞が披露されました。



# 収穫祭

2013年10月20日午前9時より、収穫祭が行われました。

天・人・地が一体となる稲作を目指し、猛暑や台風などの自然界からのメッセージを感じながらの5ヶ月間でした。

恵みの雨の中、実りを与えていただいたことへの感謝を込め、



黄金色に輝く稲穂を神様にお捧げし、肅々と祭事に臨ませていただきました。

一束だけの稲刈りと結束をすることになりました。



インターネットを通じて収穫祭を知り、各地から初めて参加された

方も、稲刈りや結束の体験をさせていました。



暖かい光に包まれた清らかな場所での直会は、雨で冷え切った体を暖めてくれました。収穫祭実行委員長の挨拶の後、田植えにも参加して下さったミュージシャンの方々が、ミニライブをして下さいました。



自然学校の先生もされている、優しさあふれる癒し系「木と森の人」山田証さん。



パーカッション&ボイスハープもかっこよかった太一さん。



セピア色の思い出がよみがえるような美しい歌声の高橋宣夫さん。



三人の歌声は、会場に響き渡り、参加者の心をふるわせ、「自然界や、人と人とのふれ合いや、これまで出会った全てことが、とても大切だったんだ」と感じさせていただき、体だけでなく心まで暖かくなるような歌声でした。それぞれの演奏の後、この日のために作って下さった「収穫の歌」を三人のアンサンブル

で披露して下さい、参加者も一緒に歌いました。楽しかったです！

楽しい会食の後、日新弘道館塾と有志による「水の手紙」

(井上ひさし原作)の群読の披露も行われました。→

